

事業名 新しい水戸を育むインキュベーション・スペース「MEET the MITO」(ミートザミート)

■事業の目的 (300 字程度)

若手が行き交う拠点「インキュベーション・スペース MEET the MITO」を水戸のまちの“ど真ん中”に開設する。カテゴリーやジャンルに囚われず、同じレイヤーで水戸の素材を集積させることで、ジャンルを越えたつながりや、新しいアイデア、価値観が生まれる土壌を作る。また、水戸のまちなかから失われつつある機能を小さいながらも集約させることで、多機能で使い勝手のよいスペースを目指す。

■事業の概要 (300 字程度)

水戸出身の IT 系起業家(上場企業)が水戸の中心市街地に開設する「若手起業家育成のためのシェアオフィス・M-WORK」とのコラボレーション事業。M-WORK は、3階建ての古いビルをリノベーションし、1階にカフェ(パイロンベイコーヒー)、2階と3階にベンチャー育成のためのシェアオフィスを整備する。まちみとラボは、その建物の地下に、イベント・交流スペースとショップを整備する。様々な背景を持つ若者が face to face で対話ができ、新しいアイデアや価値観が生まれる拠点「MEET the MITO」とする。若手起業家育成に向け、建物全体としての相乗効果を期待する。

■社会的課題の現状アプローチ(図表可)

※解決が必要な社会的課題とは、どのようなものですか。

※この課題を解決するために、本事業ではどのような着眼点でアプローチしようとしていますか。

課題

- ①水戸のまちなかは衰退している。
- ②一方で、非常に沢山の高校生がまちなかの高校に通っている(全9校で約3000人)。
- ③高校生たちの多くは、学校卒業後、水戸のまちを離れる。

着眼点

- ①高校生をはじめとする若者が、水戸のまちなかで学び、水戸から世界に臨む人財を育成する。
- ②若者を水戸のまちに定着させ、水戸のまちなか再生、水戸の魅力向上につなげる。

■具体の事業内容(図表可)

※上記の課題を解決するという観点から、事業の内容をご説明ください

M-WORK

- ・屋上 : イベント・スペース
- ・3階 : シェアオフィス(10席)・・・ベンチャーの育成・コラボ
(シェアオフィスユーザーのコラボレーション)
- ・2階 : シェアオフィス(12席)と会議室・・・ベンチャーの育成・コラボ
(シェアオフィスユーザーのコラボレーション)
- ・1階 : カフェ(パイロンベイコーヒー)・・・ベンチャーのコラボ
(高校生とシェアオフィスユーザーの出会いの場)

MEET the MITO

- ・地下 : イベント・スペース・・・ベンチャーの創造と育成
(サロンメンバーの出会いの場)(起業家によるメンタリング)
ショップ・・・洒落たチャレンジショップでの若者の挑戦を支援

■実施による効果

※この事業を実施することで、社会的課題はどのように解消される見込みですか。

ビジョン

- ①水戸からメガベンチャーを創出し、水戸をイケてる街にする。
- ②水戸を日本一高校生起業家が多い街にする。

効果

- ①若手起業家を輩出する街「水戸」としてのイメージアップ。
- ②若手起業家の輩出が起爆剤となり、新しいヒト・モノ・コトが生まれるまちなか再生の実現。
- ③県都として、茨城県をリードし、茨城県の発展を牽引する「水戸」づくり。

■事業の特徴・革新性

※既存の取組と比べてどのような点が特徴的ですか。

※従来の方法と比べて革新的と思われるのはどのような点ですか。

- ①世界を股に掛けて活躍する大手 IT 企業と、ローカルなまちづくり会社とのコラボレーション。
 - ・地元の高校の先輩後輩の関係で、水戸のために身銭を切った投資で事業を進める。
- ②バーチャル化が進む故の、リアルな場の創設。
 - ・リアルとオンラインの両面でのハイタッチな交流ができる「場」を。
 - ・「人」を大切にしている経営力を身に付ける。
- ③ビッグデータ、IoT、AI、そしてブロックチェーン技術を活用した実験にも取り組む。
 - ・新しいテクノロジーに対応したサービス、組織論に挑戦する。
- ④水戸のまちの特徴である高校生を中心とした若者をターゲットとしている。
 - ・かつて「ルーズソックス」の実験場にもなった水戸のまちの特徴を活かし切る。

■今後の展望

※この事業に対する今後の展望をご記入下さい。

- ①事業スケジュールは以下の通り。
 - ・平成30年1月下旬 事業内容の想定と概算費用見積
 - ・平成30年2月下旬 事業内容と費用の確定
 - ・平成30年3月下旬 契約・着工
 - ・平成30年6月上旬 改修工事完成
 - 内装デザイン最終検討、内装工事見積調整
 - ・平成30年7月上旬 内装工事着工
 - ・平成30年8月上旬 内装工事完成
 - シミュレーション、トレーニング、各種準備、レセプション等
 - ・平成30年9月上旬 オープン予定
- ②稼ぐ仕組みづくり
 - ・人財育成の場ではあるが、まちみとラボとしての稼ぎがないと続かない。
 - ・イベント・スペースの効果的な活用と、ショップ・スペースの効果的な運用を実現したい。